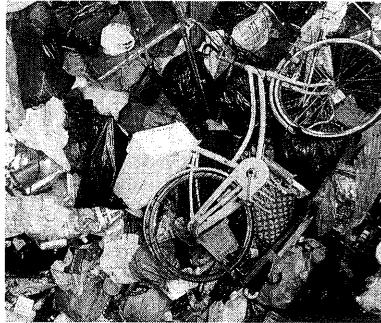


はじめませんか ごみの減量



▲生かせば資源となるものを捨てていませんか
 (11月28日、城南衛生管理組合奥山埋立センターで)

近年、ごみ問題は社会的関心を集めています。しかし、私たちは毎日の暮らしの中で、生かせば資源になるものをきちんと有効利用していきましょうか。また、ごみが増え続けている今、ごみを減らす・出さないことが、住み良い地球環境を守り、豊かな社会を築いていくために重要なことです。ごみの減量について、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

「もったいない」という心
 現代社会は、資源大量消費型社会と言われています。しかし、地球が40億年の間に作りだしてきた資源を、わずか数年で消費してしまっている現状です。ごみを減らす・出さないことが、住み良い地球環境を守り、豊かな社会を築いていくために重要なことです。ごみの減量について、皆さんのご理解とご協力をお願いします。

ごみ処理費用
 二存じですか
 二存じですか
 二存じですか
 二存じですか



清掃事務所
 内線 317-318

年末の臨時ごみ

申し込みはお早めに!

年末の大掃除、廃木の取扱いなどで、一時的な増量が出るごみは、有期で収集します。

臨時ごみは、年内は、十七日(金)まで、ご希望の方は、必ず二十日(金)まで、清掃事務所へ電話で申し込みください。

※年内、年終は、月八日から収集します。

ごみの減量 あなたも工夫を!

皆さん一人ひとりの、わずかな工夫と工夫が、ごみを減らし、地球の資源を守ります。

例は、
 △工夫 その1 新聞、雑誌は街角の資源回収ボックスへ投入。
 △工夫 その2 生ゴミの大半は水で十分、水を切ってから出しましょう。
 △工夫 その3 ごみの約二割は包装材です。買物の袋は持ち帰ったり、簡単に包装を減らしましょう。

十二月市議会定例会 一般会計補正など十議案を提案

十一月宇治市議会定例会は、十一月六日から二十日までの十五日間の会期中開かれていきます。

この定例会には、平成三年度一般会計補正(第三号)と国民健康保険事業特別会計、水道事業会計の補正予算案、各例改正など十議案が提出されています。

一般会計の補正予算額は、九億九千七百八十八万六千四百三十三円、補正後の予算総額は、億七千七百四十九万四千七百八十八円と見られています。

提案の十議案は、
 △(東宇治)コミュニティセンター用地費(四億円)
 △(西宇治)健康保険事業特別会計への繰入金(基金新設)に五千万円
 △(西宇治)身体障害者移動支援に五千万円
 △(西宇治)市営取山の家整備に七億七千四百円
 △(西宇治)市営取山の家整備に七億七千四百円

ごみの分別は減量への第一歩です。ごみを出すとき、もう一度確認しましょう

もえるごみ	もえないごみ
台所のごみ、紙くず、木切れ、草類(少量)、古着、掃除機のごみ、食用油など 台所のごみは必ず水切りをしてごみ袋へ。 少量の木切れ・刈り込みはひもでくる。 食用油は少量ずつ紙布にしみ込ませて出す。 掃除機のごみは小袋に入れてからごみ袋へ。 古紙(新聞・雑誌・ダンボール)は古紙回収へ。	ビン・缶類、プラスチック・ビニール類、乾電池・乾電池、紙オムツ、ナベ・ヤカン類、小型電化製品、陶器、ガラス類、ゴム・皮革製品、反、蛍光灯、電球、自転車、カーペット、ふとん(少量)など カミソリ・針などはガムテープか厚紙でつつむ。 スプレー缶は必ず穴を空けてつぶす。 カーペットは60cm四方の大きさに切る。 自転車は必ずごみ袋と表示して出す。 ガラス・電球などは破損にひまなく割れ物と表示する。 刃は水でめらせて丈夫な袋に入れる。
使用済み乾電池 使用済み乾電池は透明のビニール袋に入れ、もえるごみの収集日に集積場へお持ち込みください。	収集できないもの バイク、タイヤ、危険物(薬品類、灯油、ガスボンベなど)、消火器、土砂などは収集できません。
臨時ごみ(有料) 家具、大型電化製品、ベッド、タタミなどの粗大ごみや、(庭)整理などの一時少量ごみは、臨時ごみ収集(有料)を利用する。清掃事務所までお電話を。	

市役所連絡所

オーム社書店(近鉄大久保駅東側)
 は十二月十七日(日)閉店するため、市役所連絡業務を十二月(日)から休業します。市では、代わって新たな連絡所を設置の予定です。詳しくは追ってお知らせします。

市民課(内線 282)

市長インタビュー 夢とロマンのまちづくり 文化都市・宇治市

1月2日(木) 午前10時から15分間
 KBS京都・UHF34ch

テレビ広報

ご協力ありがとうございました

「中東湾岸復興・難民救済募金」

総額 137万1,749円

を奨励。これは、三月市議会定例会の中東湾岸復興・難民救済募金の決議を受けて、広く市民の皆さんに呼び掛けられたものです。この結果、市市民会や公民館など市内十二箇所に置いた募金箱の千七百四十七十四円をはじめ、事務局への直接募金など、総額百七十七万四千九百九十九円という多額の募金が寄せられました。

この募金は、十一月二十一日、日本赤十字社京都府支部を通じて、同社に寄託されました。同社では全国から寄せられた湾岸復興募金委員会の要請を受けて必要な物資供給、医薬品などを調達し、中東へ送り出す。

ご協力いただいた多くの市民の皆さんへ、厚くお礼申し上げます。

